

平成 27 年度 広島県生物多様性普及員 人材育成講座（自然再生編）が始まりました！

1 第 1 回講座は 6 月 28 日（日）

平成 27 年 6 月 28 日（日）10 時から、広島県立総合体育館 1 階のミーティングルームで、「平成 27 年度 広島県生物多様性普及員人材育成講座」の第 1 回講座がスタートしました。5 月の GW から募集を開始し、広島市内を中心に県内各所から参加申込のあった 16 名のうち 14 名が出席しました。

開会にあたり、主催者である広島県環境県民局自然環境課の神川課長からご挨拶をしていただき、本講座の趣旨をお話いただきました。その後、運営主体である株式会社無垢〜ムーク〜の代表取締役 道原さんの挨拶、スタッフの紹介をしいよいよ講座が始まりました。



2 目的の共有化とアイスブレイクでお互いに知り合いになる



講座の最初にオリエンテーションとして、講座の目的（生物多様性について、次世代を担う青少年に普及啓発を行う人材を育成すること）を全員で確認しました。また、全 7 回のスケジュールと講座の進め方についても確認しました。

続いて、受講生とスタッフがお互いに知り合う「アイスブレイク」を実施しました。

まずは簡単な質問形式による意識調査を行い、どんな人が参加しているのかをお互いに知り合いました。「講座を知ったきっかけは？」という質問に対し、『知り合いに誘われたから…』という答えが圧倒的に多く、「参加の動機は？」に対して『生物多様性を勉強したい・関心がある』という答えが多くありました。今回の受講者は非常に意識が高く、関心を持って参加していることがよくわかりました。



次に、動物のカードを使ったゲームを行い、雰囲気作りをしました。

受講生の背中に、生き物の写真や生態が書かれたカードを貼り付け、自分がどんな生き物なのかを探り当てていくというものです。お互いに背中のカードを見せながら、「私は 6 本足ですか？」「私は肉食ですか？」「私は卵で生まれますか？」など、その生き物の暮ら

しや体つきなど、「はい」「いいえ」「わかりません」の3種類の回答ができる質問をして、他の受講生からヒントをもらいながら自分の背中に付いたカードの生き物を当てていきました。途中、「何の生き物か、さっぱりわからん…」「足が2本で、空が飛んで… 鳥か？」などなど、笑いと困惑の中、次々に自分のカードの生き物が判明していきました。

最後に、全員の自己紹介を行い、お互いに知り合う時間となりました。



3 講義「生物多様性とは…」



午前中、最後のプログラムとして本講座の基礎となる「生物多様性」について、環境カウンセラーの奥山秀輝さんからお話を聴きました。

奥山さんからは、生物を取り巻く現状を紹介していただいた後に、生物多様性の3つの多様性・3つのサービス・4つの危機について、事例をまじえてわかりやすく解説していただきました。今回の受講生のうち、生物多様性について初めて知ったという人も多く、「年間に何種類も絶滅していることに驚いた」「なんとなくわかっていたが、講義を聴いてさらによくわかった」など、生物多様性の基礎が理解できたと大変好評でした。

4 講義「自然再生事業について」

午後の初めは、次回から実践的な観察会を行うフィールドである八幡湿原の自然再生事業について、NPO 法人西中国山地自然史研究会事務局長で環境カウンセラーの和田秀次さんからお話を聴きました。



和田さんからは、八幡湿原の特徴や湿原が減少した経緯、再生事業が行われるまでの歴史と現状について、解説していただきました。特に、湿原の再生にあたっては、環境条件の整備を通じて自然の回復力で行うこと、自然再生事業は我々人間のために行っていることを強調されました。受講生からは「再生事業の設置例がわかり、そこに存在する生物がどのように生存しているか、興味がある」「長い年月をかけていることに感心した」「最終的には“人間のため”に行っていることが印象に残った」「次回、現場に行くのが楽しみ」などの声が聞かれました。

5 講義「天気を読む」

続いて、これからの野外活動で有効な知識となる「天気を読む」について、環境カウンセラーの波田健一さんからお話を聴きました。



波田さんは気象予報士でもあり、その知識をフル活用して、雲の様子からどんな天気になっていくのか、天気に関わる古くからの言い伝え・ことわざ、天気図の見方などをクイズ形式で教えていただきました。受講生からは「フィールドワークするにはありがたい情報だった」「これから毎日雲を見る、天気図を見て自分で天気を判断したい」「自然・生物の営みと気象の変化の関連は非常に興味深い」などの声が聞かれました。

6 第2回以降の観察会を有意義に過ごすために…

講義後、第2回講座から3回にわたって実施する「実践型観察会」において、どのような心構えで臨むのかを確認しました。

観察会には、一般募集した親子30名程度が参加します。本講座の受講生は観察会の参加者ではなく、観察会講師の補助や運営補助など、「自分が青少年を対象に普及啓発活動を行うこと」を想定し、「講師から学ぶこと（話の展開やコミュニケーションなど）」「現場から学ぶこと（安全管理や運営方法など）」を確認しました。



また、3回の観察会のうち1回は運営側が体験できるよう、簡単なゲームをして受講生を3グループに分けました。受講生は箱の中から1枚の紙片（くじ）を引き、その紙に描いてある模様を他の受講生と組み合わせて1枚の絵を完成させました。今回使用した絵は「トナカイ」「ウマ」「ラクダ」の3種類でしたが、体つきが似ていたため絵を合わせるのに四苦八苦！！予定の倍以上の時間がかかりましたが、無事、グループができました。

7 ふりかえり、わかちあい

最後に、ふりかえりシートを用いて1日の振り返りを行いました。各自でシートに記入した後、前述のグループでお互いに感想を述べ合いました。特に、ふりかえりシートの質問項目にあった「全体を通しての感想を、漢字1文字で表す」について紹介してもらいました。

出てきた字は「種」「快」「集」「楽」「隣」「続」「有」「覚」「発」「知」「自」「多」「生」「初」などさまざまでしたが、全般的に楽しみながら新たな発見があった講座となったようでした。



次回ははいよいよ北広島町八幡にある霧ヶ谷湿原での実践です。どうか天気になりますように！祈るばかりです。